

単元名 きせつのことば3

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことや想像したことから、書くことを見付けることができる。
 (3) 言葉の働きに気付き、経験を文章に表そうとする。

標準的な展開例

02010211_001

【教材名】秋がいっぱい (下 P. 32～P. 33)

【準備等】秋発見カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 秋に関わる言葉を探し、発表する。 ★秋を感じる言葉を見付けよう。 ○「やま」を音読する。</p> <p>○教科書の挿絵や身の周りから秋に関わる言葉を見付け、発表する。</p> <p>○見付けた秋の言葉をまとめる。</p> <p>2 秋発見カードを書き、感想を伝え合う。 ○「やま」を音読する。</p> <p>○秋を感じるものをカードに書き込む。</p> <p>○書いたものを読み合い、お互いのカードについての感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読をさせ、秋のイメージを広げさせるとともに、音やリズムも感じられるようにする。 一人読み、追い読みなど読み方を工夫して、楽しみながら読めるように工夫する。 生活科の学習との関連を図るとよい。 ウェビングを使うなど、言葉のイメージが広がっていくように工夫する。 【評】秋を感じる言葉を探して発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 生き物、植物、食べ物などに分類させ、ノートなどにまとめさせておく。 【評】秋の言葉探しの活動を通して、それぞれの言葉には秋を感じさせたり、秋を表したりする働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 音読を通して、前時に見付けた秋を思い出せるようにする。 前時にまとめたものを参考に、自分が一番秋を感じるものを選ばせる。 教科書(P. 32)のカードの例を確認させ、絵と文でかくことを理解させる。 見付けたものを書くだけでなく、自分の感想や周りの人の反応などもカードに書くとよいことを伝える。 【評】秋カード作りを通して、自分の経験や体験から秋を感じるものを見付けて絵と文で表現する「思考・判断・表現」を評価する。 同じものを書いた人を探したり、違うものを書いた人を見付けたりするなど、ゲームのようにして交流させてもよい。 自分では見付けられなかった秋があることに気付かせる。 書いたカードは、季節発見カードとして春から順に綴じておき、冬につなげる。

【 備 考 】